

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	教育 0-1
1. 教育文化学部	教育 1-1
2. 教育学研究科	教育 2-1
3. 教職実践開発専攻	教育 3-1
4. 医学部	教育 4-1
5. 看護学研究科	教育 5-1
6. 工学部	教育 6-1
7. 工学研究科	教育 7-1
8. 農学部	教育 8-1
9. 農学研究科	教育 9-1
10. 医学獣医学総合研究科	教育 10-1
11. 農学工学総合研究科	教育 11-1

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
教育文化学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
教育学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
教職実践開発専攻	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
医学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
看護学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
工学部	期待される水準にある	期待される水準にある	改善、向上している
工学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	改善、向上している
農学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
農学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
医学獣医学総合研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
農学工学総合研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

教育文化学部

I	教育の水準		教育 1-2
II	質の向上度		教育 1-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 一般入試のほか推薦入試、帰国子女入試、社会人入試、私費外国人留学生入試による入学者選抜試験を行っている。学校訪問等から高等学校のニーズを調査し、平成 28 年度から宮崎県教員希望枠（推薦入試）及び AO 入試を導入することを決定している。
- ファカルティ・ディベロップメント（FD）について、教育の質保証のため FD 委員会を中心とした学生による授業評価、授業公開等を実施している。平成 26 年度からは、附属学校園を活用した FD 活動として、「総合的な学習の時間」における大学教員の助言指導と、大学教員による「土曜講座」を実施している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 25 年度にカリキュラムマトリックスやカリキュラムフローチャートを作成し、体系的な教育課程を検証する仕組みを整備している。
- 学校教育課程では、学修段階に応じた履修カルテを作成しており、4 年次の「教職実践演習」では、履修カルテを使用して、学習履歴を振り返ることにより、教員として求められる事項について、成果、不足している知識及び技能を把握して自己の課題の発見する仕組みを構築している。
- 学校教育課程の希望者を対象に、教職パワーアップ合宿を毎年 1 泊 2 日で実施しており、教員採用試験に向けた学習目標の明確化やグループによる学習方法等、学習の進め方に関するガイダンスを実施している。

以上の状況等及び教育文化学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度の学校教育課程の卒業生一人当たりの教員免許状の取得件数は、約2.4件となっている。
- 平成24年度に実施した学生アンケート調査結果では、専門科目についての肯定的な回答の割合は、「授業はわかりやすかった」は95.8%、「授業をとおして総合的な判断力が身についた」は90.1%、「授業をとおして専門分野の知識を応用できる能力が身についた」は92.7%となっている。

観点2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成24年度から平成27年度における就職率は、90.7%から96.9%の間を推移している。

以上の状況等及び教育文化学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教職実践基礎コースに、「学校・学級経営論」、「教育課程・学習開発論」等の教職大学院に接続する科目を設置し、学部大学院一貫教育を見据えた教育課程を整備している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 24 年度から平成 27 年度の就職率は 90.7%から 96.9%の間を推移している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

教育学研究科

I	教育の水準		教育 2-2
II	質の向上度		教育 2-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 26 年度から教員の授業評価の適正確認方法として Grade Point Class Average を導入しており、平均点の高い科目や成績の標準偏差の低い科目について、担当教員に説明を求める体制を整備している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 25 年度からカリキュラムマトリックスとカリキュラムフローチャートを作成し、履修指導に活用している。
- 日本語支援教育専修では、多言語・多文化共生に関する科目を設置しており、必修科目の「日本語支援教育実習（1）」では、学内の外国人留学生や海外協定校からの日本語研修生を対象にした日本語教育の教育実習を行っている。

以上の状況等及び教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育臨床心理専修では、国内外の学会での研究発表、学術雑誌及び紀要等に論文を投稿することを奨励しており、平成 23 年度及び平成 24 年度における大学院生と教員の共著論文数は合計 14 件、研究発表数は合計 19 件となっている。
- 海外の協定校において、授業内で日本語教育実習を実施し、現場での教育能力の向上を図る取組として、順天大学校（韓国）及び東呉大学（台湾）と連携した「日本語支援教育実習（2）」を開講している。

観点 2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 24 年度から平成 27 年度における就職率（現職教員大学院生を除く）は、75.0%から 100%の間を推移している。

以上の状況等及び教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度に教育臨床心理専修の臨床心理学領域と教育心理学領域を統合し、教育臨床心理学領域を設置する取組を行い、心理学と特別支援教育の複合的視点をもって幼児・児童・生徒の支援ができる人材の養成を行う教育課程を編成している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 24 年度から平成 27 年度の就職率（現職教員大学院生を除く）は 75.0% から 100% の間を推移している。
- 教育臨床心理専修では、国内外の学会での研究発表、学術雑誌及び紀要等に論文を投稿することを奨励しており、平成 23 年度及び平成 24 年度における大学院生と教員の共著論文数は合計 14 件、研究発表数は合計 19 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

教職実践開発専攻

I	教育の水準		教育 3-2
II	質の向上度		教育 3-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 宮崎県教育委員会との交流人事等により実務家教員6名を採用している。また、共通必修科目・コース必修科目は、研究者教員と実務家教員がチームで授業を実施している。
- 入学者選抜試験は、大学卒業見込み・卒業生を対象とした選抜方法のほかに、社会人経験者、現職教員（常勤3年以上6年未満）及び現職教員等（常勤6年以上の現職教員及び教育行政機関職員）を対象とした選抜方法を設けており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の入学者のうち現職教員大学院生の割合は、32%から50%の間を推移している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 修了認定は、宮崎県教育委員会や宮崎市教育委員会、連携協力校の代表が学外評価者として参加する学習達成度評価専門委員会によって実施している。
- 現職教員大学院生は、教育実習の内容に学部卒大学院生への指導が含まれており、学部卒大学院生と協働して学習を行っている。

以上の状況等及び教職実践開発専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成24年度から平成27年度の修了年次在籍者の修了率は、71.4%から100%の間を推移している。
- 平成24年度から平成27年度における教員免許状取得件数は、修了生一人当たり平均1.6件となっている。

観点 2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 24 年度から平成 27 年度における就職率（現職教員大学院生を除く）は、平均約 94.7%となっている。

以上の状況等及び教職実践開発専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度から新たに高等学校 4 校を連携協力校とし、高等学校の現職教員
大学院生や高等学校教員を目指す大学院生の教育実習受入体制を整備している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 24 年度から平成 27 年度の修了年次在籍者の修了率は 71.4%から 100%の
間を推移し、就職率（現職教員大学院生を除く）は 87.5%から 100%の間を推移
している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、
総合的に判定した。

医学部

I	教育の水準		教育 4-2
II	質の向上度		教育 4-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）やスタッフ・ディベロップメント（SD）等の取組により、教育の向上を図っており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）では、試験問題作成や国際基準に対応した医学教育等をテーマとしたFD・SDを22件開催している。
- 教育の質を担保するため、総合評価検討委員会を設置し、教育・研究活動の自己点検・評価等を行うとともに、平成26年度に外部評価を受審している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 早期体験実習を1年次に、早期地域医療体験実習を2年次に実施するなど、早い時期から地域医療に携わるよう配慮している。
- 平成20年度に採択された文部科学省質の高い大学教育プログラム「複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成」を実施し、医学科ではEMP（English for Medical Purposes）、看護学科ではENP（English for Nursing Purposes）を開設している。また、その受講生を中心に、国際交流協定締結校へ、クリニカルクラークシップ（医学科6年）や研究室配属（医学科3年）、総合実習（看護学科4年）として派遣しており、第2期中期目標期間において医学科85名、看護学科31名は海外実習を経験している。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度の国家試験結果合格率は、医師87.2%、看護師96.8%、保健師98.5%、助産師100%となっている。
- 授業評価アンケートでは、シラバスに記載された教育目標に到達したかにつ

いて、肯定的な回答の割合は、医学科 73.5%、看護学科 89.7%となっている。

観点 2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医学科、看護学科ともに国家試験に合格した卒業生のうち就職希望者は、附属病院をはじめとする医療機関、保健所等に就職しており、就職率は、毎年度おおむね 100%となっている。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育活動の質保証体制の整備として、関連教育病院連絡協議会を設置し、PDCA サイクルにおけるチェック体制の充実を図っている。
- 入試成績等調査委員会を設置し、入学者の成績及び就職先を分析し、地域医療に貢献する優秀な人材の獲得に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 授業評価アンケートでは、授業の到達度、満足度（5点満点）の平均は、それぞれ医学科では4.3点、4.1点、看護学科では4.6点、4.4点となっている。
- 就職率は、毎年度おおむね100%となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

看護学研究科

I	教育の水準		教育 5-2
II	質の向上度		教育 5-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 毎年度自己点検評価を行い、教育課程の編成状況、実施上の工夫のほか、養成人材像に応じた教育方法や自主的学習を促す教育指導方法について確認している。また、教員間の相互授業評価、受講学生による授業評価アンケートを実施し、結果を全教員へフィードバックすることで教育改善に取り組んでいる。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 26 年度の改組に伴いディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを明確に定めており、カリキュラム・ポリシーに基づくカリキュラム編成を行い、カリキュラム・マトリックスで現行カリキュラムの点検を行っている。
- 研究者育成コースでは、研究方法論を全員で履修し、各演習では少人数で文献購読や研究方法等の課題解決技法について討議を行う教育等を実施している。また、ライフサイクルの視点から対象者の健康生活現象を捉える研究、看護介入に必要な理論・技法の探求等、臨床に活かした教育を実施している。
- 実践看護者育成コースでは3領域を配置しており、教育・臨床で研究的思考を持ち実践する看護専門職の育成を目的としている。がん看護領域では、臨床経験の課題を学生に考えさせるため、修了生との事例検討会を開催するなど、事例検討を多く取り入れている。実践助産学開発領域及び実践助産学領域では、プリンスオブソンクラ大学（タイ）にて異文化理解及び助産学に関する学術交流、臨地・臨床実習を実施し、平成 26 年度に 2 名、平成 27 年度に 5 名の学生が受講している。

以上の状況等及び看護学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 26 年度に医科学看護学研究科（看護学専攻）を看護学研究科へ改組しており、平成 27 年度に 3 名が修了している。また、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に、医科学看護学研究科（看護学専攻）から 45 名が修了している。
- 第 2 期中期目標期間に医科学看護学研究科（看護学専攻）の専門看護コースがん看護分野を 9 名が修了しており、修了後にがん専門看護師の資格をほぼ全員が取得している。
- 医科学看護学研究科（看護学専攻）修了生アンケート（平成 23 年度及び平成 24 年度修了生）及び看護学研究科修了生アンケート（平成 27 年度修了生）では、カリキュラムや個別の授業について、「看護を実践するための高度で幅広い専門的な知識・技術が身につきましたか」等のほぼすべての項目で 5 段階中 4 以上となっている。

観点2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 看護学研究科の平成 27 年度修了生 3 名について、1 名は留学生で母国に帰国、2 名は看護師、保健師としてそれぞれ宮崎県と東京都に就職している。
- 第 2 期中期目標期間の医科学看護学研究科（看護学専攻）及び看護学研究科の修了生（48 名）の進路・就職について、看護師又は保健師は 37 名、他大学への進学は 1 名、教員等は 10 名となっており、修了生の 81.3%は宮崎県内に勤務している。

以上の状況等及び看護学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 毎年度自己点検評価を行い、教育課程の編成状況、実施上の工夫のほか、養成人材像に応じた教育方法や自主的学習を促す教育指導方法について確認している。また、教員間の相互授業評価、受講学生による授業評価アンケートを実施し、結果を全教員へフィードバックすることで教育改善に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度に看護学研究科を 3 名が修了しており、研究成果を論文形式にまとめ、研究発表を行っている。
- 第 2 期中期目標期間に医科学看護学研究科（看護学専攻）の専門看護コースがん看護分野を 9 名が修了しており、修了後のがん専門看護師の資格をほぼ全員が取得している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

工学部

I	教育の水準		教育 6-2
II	質の向上度		教育 6-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育改善の体制として、学部の教育改革推進センターのファカルティ・ディベロップメント（FD）部門では、全学の FD 専門委員会と情報を共有しながら FD 活動を推進している。また、各学科、センターではそれぞれの枠組みで FD 活動を自主的に行っており、工学基礎教育センターでは、教育改革推進センターFD 部門との共催で工学部 FD 報告会を実施し、数学及び物理教育への取組について報告している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 全学科が日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に従って、それぞれに育成する人材像及び学習・教育到達目標を定め、それに応じたディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定し、体系的な教育プログラムを編成している。
- 国際的な工学系人材育成の観点から、1年次生及び2年次生に対して、TOEIC の受験を義務化するとともに、「めざせ GLOBAL ENGINEER! イギリス大学での授業模擬体験 2 日間イベント」の開催や海外への渡航を促す科目として「海外体験学習」を導入している。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における標準修業年限内の卒業率は69.5%から78.1%の間を推移している。
- 平成23年度から平成26年度における学生による授業改善アンケートの結果（4段階評価）では、専門科目の授業の満足度及び到達度について、それぞれ

3以上となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間における卒業生の就職率は94.0%から100%の間を推移しており、就職者のうち技術系の企業へ就職した者の割合は71.1%から81.6%の間を推移している。また、進学率は34.2%から40.2%の間を推移している。
- 平成25年度に卒業生の就職先を対象に実施したアンケート結果では、「工学部教育への満足度」については約90%が肯定的な回答となっている。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学術分野の広がり・産業構造の変化・社会からの要請の変化に対応するために、平成 24 年度に学部改組を行い、教員組織と教育組織を分離し、学科の垣根を越えた教育が可能な体制を整備している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生の受賞状況について、平成 24 年度から平成 27 年度に第 4 回サイエンスインカレのサイエンスインカレ・コンソーシアム奨励賞を含め、合計 29 件受賞している。
- 第 2 期中期目標期間における就職率は、平成 22 年度の 94.0%から平成 27 年度の 98.7%へ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

工学研究科

I	教育の水準		教育 7-2
II	質の向上度		教育 7-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育改善の体制として、各専攻において学生による授業改善アンケート、学生からの意見聴取会、教員学生懇談会での意見聴取等を基に授業改善報告書を作成している。また、研究科全体として、研究科委員会を中心に各専攻やセンター及び関連する委員会によってPDCAの体制を整備している。
- 研究科内の国際教育センターを中心に、海外協定校の卒業生を対象としたダブル・ディグリープログラムやインドネシアの行政官を対象としたリンケージプログラムのほか、留学生特別プログラムを実施しており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に年度平均11名の外国人留学生を受け入れている。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 研究科及び各専攻は、教育目的に沿ってディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを定め、それらに基づいて各専攻ごとに履修目標を設け、学生に履修モデルを明示している。また、各科目を履修目標と関連付けることで体系的なカリキュラムを編成しており、学生が履修モデルを参考に履修することによって教育目標を達成できるように工夫している。
- 社会的・職業的自立を促すための「技術経営とベンチャービジネス論」及び「知的財産管理と技術者倫理」といった高度専門技術者を育成するための科目群を設定するなど、社会や学生のニーズに対応したカリキュラム編成を行っている。

以上の状況等及び工学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点 2－1 「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間における標準修業年限内の修了率は 86.1%から 93.1%の間を推移している。
- 第 2 期中期目標期間における学生一人当たりの学会での研究発表件数は年平均約 1 件、論文投稿件数は年平均約 0.4 件となっている。また、学生が各種コンベンション等を受賞しており、第 2 期中期目標期間の受賞件数は年平均約 20 件となっている。

観点 2－2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間における就職率は 93.9%から 100%の間を推移している。
- 平成 25 年度に実施した修了後 3 年目の修了生を対象としたアンケート結果では、「専門能力」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」等の 7 項目について、70%以上が肯定的な回答となっており、また、「工学研究科教育への満度」については、9 割近くが肯定的な回答となっている。

以上の状況等及び工学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間に研究科内に教育改革推進センターや国際教育センターを設置しており、教育改革推進センターでは、FD 講演会・研修会や、修了生・就職先への組織的なアンケートを実施している。また、国際教育センターでは、海外協定校の卒業生を対象としたダブル・ディグリープログラムやインドネシアの行政官を対象としたリンケージプログラムのほか、留学生特別プログラムを実施しており、第2期中期目標期間に年度平均 11 名の外国人留学生を受け入れている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 25 年度に実施した修了生の就職先企業を対象としたアンケート結果では、「専門能力」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」等の7項目すべてについて、75%以上が肯定的な回答となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

農学部

I	教育の水準	教育 8-2
II	質の向上度	教育 8-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 各教員が授業の方法・工夫や、成績評価方法、授業計画の達成度等を記載した授業点検シートを作成しており、授業点検シートに基づく授業改善検討会を実施している。
- 入学者の受入の改善については、入学後の修学状況、学業成績、進路と入学者選抜試験の方式との相関性について調査するなど、継続的かつ組織的に検証作業を行っている。地域貢献と国際貢献のための人材育成を目的とした「産業動物コンサルタント育成プログラム」等の開始に伴う検討により、平成 28 年度から入学定員を 20 名増員することとしている。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 「International GAP（国際的適性農業規範）対応の食糧管理専門職業人の養成」において、平成 23 年度に木花フィールド（農場）が GAP（適正農業規範）認証を獲得しており、平成 24 年度には「GAP 指導員講座」を植物生産環境科学科の学生等を対象に実施しているほか、東海大学及び南九州大学との連携による「畜産基地を基盤とした大学間連携による家畜生産に関する実践型統合教育プログラム開発」においては、ティーチング・ポートフォリオの取組を行っている。
- 教育理念・教育目標を実現するため、附属フィールド科学教育研究センター等の学部附属施設を設置している。学部附属施設には 9 名の教員を配置し、各学科と連携して学部の教育を実施している。
- 全ての科目について、担当教員、ナンバリングコード、ディプロマポリシーとの対応関係、到達目標、授業計画、評価方法を記載したシラバスを作成し、学務情報システムにより、学内外に公開している。また、標準成績評価基準を明示しており、平成 26 年度には、成績に関する申し立て方法について見直し、学部として組織的な対応ができるように改善を図っている。

以上の状況等及び農学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 標準修業年限内の卒業率は、獣医学科以外の5学科の平成19年度から平成23年度の入学者は86.2%から90.2%の間を推移している。また、獣医学科の平成18年度から平成21年度の入学者は88.2%から96.8%の間を推移している。
- 平成22年度から平成26年度の獣医師国家試験の合格率は、80.8%から100%の間を推移している。
- 学芸員の資格取得者は、平成22年度の3名から平成26年度の24名となっている。
- 平成26年度における最終年次生を対象としたアンケートでは、専門教育に関する設問で、「授業を通して総合的な判断力が身についた」については88.2%、「授業を通してレポートや文章を書く力が身についた」については92.5%、「授業を通して専門分野の知識を応用できる能力が身についた」については93.3%が肯定的な回答をしている。

観点2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度就職率は、92.2%から97.8%の間を推移しており、就職先の89%から92%は農学関連の組織、会社、団体等となっている。
- 平成27年度に実施した卒業生を対象としたアンケートでは、学部教育の満足度について、86%は肯定的な回答をしている。

以上の状況等及び農学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 東海大学及び南九州大学との連携による「畜産基地を基盤とした大学間連携による家畜生産に関する実践型統合教育プログラム開発」を継続し、平成 24 年度から、学生 10 名（3 大学合計 30 名）を対象とした「畜産基地を基盤とした大学間連携による実践型適正家畜生産技術者養成教育（畜産基盤教育）」として実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度の獣医師国家試験の合格率は、80.8%から 100%の間に推移している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

農学研究科

I	教育の水準		教育 9-2
II	質の向上度		教育 9-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 農業の近代化に即応するため、高級技術者、研究者並びに教育者の養成を目指し、修士課程において平成 26 年度に 5 専攻を 1 専攻 6 コースに改組している。改組によって設置した農学国際コースにおいては、高度な専門性を擁した国際感覚豊かなスペシャリストの育成を目的として、農学分野横断的な内容の 3 プログラムを設置している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 26 年度から農学国際コースを設置し、分野横断型の実践プログラムを実施している。各プログラムでは、学生の英語能力の向上のために全ての授業を英語で実施しており、英語での研究発表を目標とした英語による発表要旨の作成、プレゼンテーション演習、学会や交流協定校での研究発表を経験するサイエンスコミュニケーションの授業等のほか、留学生との交流を通じて、学生の国際性等の涵養を図っている。
- 国際的視野を備えた生物遺伝資源に関する専門技術者である遺伝資源キュレーターの養成を目的として、海外の教育研究機関と提携した教育を実施している。

以上の状況等及び農学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 24 年度から平成 26 年度における単位修得率は平均 95.6%となっている。
- 平成 22 年度から平成 24 年度において、学生の学会発表件数は平均 212.3 件、論文投稿件数は平均 43 件となっている。また、各種コンベンションにおける受賞件数は合計 5 件となっている。

- 平成 25 年度と平成 26 年度に実施した学生による授業評価アンケートにおいて、90%以上が「講義の目標は理解できた」、「講義に興味を持てた」、「説明は理解しやすかった」、「有益な情報や示唆を得た」と回答している。

観点 2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における就職率は平均 98.1%、就職希望者のうち専門関連分野に就職した者は平均 86.7%となっている。
- 平成 27 年度に実施した修了生へのアンケートにおいて、「研究科の教育は満足できるものだったか」という設問に対し、100%が肯定的な回答をしている。

以上の状況等及び農学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度に 5 専攻を 1 専攻 6 コースに改組しており、改組によって設置した農学国際コースにおいて、高度な専門性を擁した国際感覚豊かなスペシャリストの育成を目的として、農学分野横断的な内容の 3 プログラムを設定している。
- 国際的視野を備えた生物遺伝資源に関する専門技術者である遺伝資源キュレーターの養成を目的として、教育基盤の整備を行っており、海外の教育研究機関と提携した教育を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 24 年度において、学生の学会発表件数は平均 212.3 件、論文投稿件数は平均 43 件となっている。また、各種コンベンションにおける受賞件数は合計 5 件となっている。
- 平成 25 年度と平成 26 年度に実施した学生による授業評価アンケートにおいて、90%以上の学生が「講義の目標は理解できた」、「講義に興味を持てた」、「説明は理解しやすかった」、「有益な情報や示唆を得た」と回答している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

医学獣医学総合研究科

I	教育の水準		教育 10-2
II	質の向上度		教育 10-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医学と獣医学が融合した研究科として、双方が融合した実質的教育を実施しており、人獣共通感染症については、人及び家畜等の動物について、医学と獣医学の立場から教授するための体制を整備している。また、博士論文の審査においては、審査を担当する主査1名、副査2名を選出する際、副査は医学系、獣医学系各1名としている。
- 生命科学研究をはじめとする教育研究の総合的推進を図るフロンティア科学実験総合センターに加え、平成23年度には産業動物防疫に関する教育・研究の拠点として、国内外の畜産基盤の安定化に寄与するための産業動物防疫リサーチセンターを設置している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生からの多様なニーズへの対応として、社会人学生のために長期履修、夜間履修制度を設けているほか、臨床医を対象とする高度臨床医育成コースを設置しており、臨床医の学生が勤務後講義に出席できるように、研究科目である「研究特論（高度臨床医育成コース）」を、土日から平日夕方の開講に変更するなどの工夫を行っている。
- 医学と獣医学が融合した研究科という特色を活かすため、医学と獣医学の教員がそれぞれスーパーバイザーとして助言を与えながら、学生自らが運営し研究発表及び討論する「サイエンスコミュニケーション特論」を実施している。
- 「高度な技術と指導性を有する家畜衛生・家畜臨床獣医師育成事業－宮崎に甚大な被害をもたらした口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザを教訓に－」において、産業動物の感染症に対する実践的教育を実施している。

以上の状況等及び医学獣医学総合研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点２－１「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の学会発表は平成 23 年度の 25 件から平成 26 年度の 86 件、外国雑誌掲載論文は平成 23 年度の 7 件から平成 26 年度の 26 件となっている。
- 学生による授業評価アンケートでは、「講義はよく準備されていたか」については 94%、「研究に対する意欲が刺激されたか」については 88%、「講義によって知識が増えたか」については 89%が肯定的な回答をしている。

観点２－２「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 25 年度から平成 27 年度における修了生は、医師、獣医師等の社会人学生 13 名を含む合計 23 名となっている。

以上の状況等及び医学獣医学総合研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- フロンティア科学実験総合センター及び産業動物防疫リサーチセンター等、学内の特色ある施設を利用した教育・研究を行っている。
- 臨床医を対象とする高度臨床医育成コースを設置しており、臨床医の学生が勤務後講義に出席できるように、「研究特論（高度臨床医育成コース）」を土日から平日夕方の開講に変更するなどの工夫を行っている。
- 「高度な技術と指導性を有する家畜衛生・家畜臨床獣医師育成事業－宮崎に甚大な被害をもたらした口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザを教訓に－」において、産業動物の感染症に対する実践的教育を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生の学会発表は平成 23 年度の 25 件から平成 26 年度の 86 件、外国雑誌掲載論文は平成 23 年度の 7 件から平成 26 年度の 26 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

農学工学総合研究科

I	教育の水準		教育 11-2
II	質の向上度		教育 11-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）について、研究科運営委員会を定期的・継続的に開催し、教育に係る重要事項を審議している。また、全学と連携して PDCA 改善システムを構築し、研究科 FD 専門委員会を中心に組織的・継続的な教育改善に努めている。
- 入学者選抜試験では、外国人留学生入試の改善について検討し、交流協定校在籍者を対象とした渡日前入試を平成 27 年度 10 月から実施している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 異なる分野の教員が複数協働して学生の研究や論文作成指導を行っているほか、各専攻の必修講義を異なる分野の教員がオムニバス形式で授業を行う融合科目としている。また、入学試験委員及び学位論文審査委員においても必ず異なる分野の教員が協働して行っている。

以上の状況等及び農学工学総合研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学力や能力の判定については、成績評価基準並びにシラバスに明記された成績評価方法に従って試験やレポート等を評価し、適正に単位認定するなどにより単位の実質化に努めている。第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の学生の成績分布は、90点から100点までが約50%となっており、残りの約50%が80点から89点となっている。
- 第2期中期目標期間の学生の学会発表数は合計382件、論文投稿数は合計224件となっており、各種学会賞、論文賞を受賞している。また、日本学術振興会

特別研究員の採択者数は、合計 18 名となっている。

- 平成 22 年度から平成 25 年度に実施した学生の授業評価調査結果では、「授業内容に興味をもてた」、「受講して知力・学力の向上に役立った」という学生の能力向上に資する項目において肯定的回答は 80%以上となっている。

観点 2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間における修了者の就職率は 90.7%となっており、過半数が大学関係に就職している。また、主な職種は研究（開発）職、教職、技術営業職となっている。

以上の状況等及び農学工学総合研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 入学者選抜試験では、外国人留学生入試の改善について検討の結果、平成 27 年度 10 月から交流協定校在籍者を対象とした渡日前入試を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 25 年度に実施した学生の授業評価調査結果では、「授業内容に興味をもてた」、「受講して知力・学力の向上に役立った」という学生の能力向上に資する項目において肯定的回答は 80%以上となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。